中学１年　国語科　教材別テスト③　模範解答・解説

「ちょっと立ち止まって」（桑原茂夫）／光村図書『国語１』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。**教科書『国語１』の「ちょっと立ち止まって」のページを開いたまま**解答します。この教材には絵（図版）がついているので、**必ず教科書の図を見ながら**解くことが大切です。段落番号は、形式段落を上から順に①②③…と数えたものです。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	文法（文の成分＝主語・述語・修飾語・接続語・独立語）	２点×７＝14点
	三	語句・漢字の知識（同音異義・部首名・慣用句・四字熟語・対義語・熟語の組み立て）	２点×８＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「ちょっと立ち止まって」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

① 文の成分（主語・述語・修飾語・接続語・独立語）を文の中から見つけ出せるか。

② 「ルビンのつぼ」の図について、**どこに目をつけると何が見えるのか**を言葉で説明できるか。

③ 「一方が見えているときは他方は見えない」という、この教材の中心となる考えをつかめているか。

④ 「ルビンのつぼ」・「橋と少女」といった複数の具体例が、筆者の主張を支えるために並べられていることに気づけるか。

⑤ 筆者の主張（＝ふだんはひと目見たときの印象にとらわれがち。見るものや見方を変えれば新しい発見がある）を、自分の言葉で字数内にまとめられるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	さっかく	⑪	背景
②	りんかく	⑫	注目
③	しゅんじ	⑬	意識
④	はあく	⑭	複数
⑤	せんさい	⑮	距離
⑥	かく（れる）	⑯	望遠鏡
⑦	うなが（す）	⑰	表面
⑧	ばくぜん	⑱	模様
⑨	けいこう	⑲	魅力
⑩	せんめい	⑳	発見

小計　20点

【注意したい字】

④「把握」は「はあく」。「はにぎ」「はこう」としないこと。⑥⑦は送りがなまで必要。⑪は「背影」と書く誤りが多い（景色の「景」）。⑮「距離」はどちらもむずかしい字。「巨離」「距難」に注意。⑯「望遠鏡」の「鏡」は金へん。⑲「魅力」の「魅」は、きへんではなく「鬼」が入る。

二　文の成分　（２点×７＝14点）

A　校庭の／大きな／桜が／とても／美しい。　　B　はい、／私が／昨日／図書室の／本を／借りました。　　C　雨が／降った。／ところが、／試合は／中止に／ならなかった。

番号	解答	解説
(1)	桜が	「何が美しいのか」＝桜が。「校庭の」は修飾語なので主語ではない。
(2)	美しい。	述語はふつう文の最後にある。「どんなだ」にあたる部分。

二　文の成分　（２点×７＝14点）（つづき）

番号	解答	解説
(3)	**美しい**	「とても」は**程度**を表す修飾語。修飾するのは「美しい」。「桜が」ではない。
(4)	**はい**	応答・あいさつ・よびかけ・感動を表す語は**独立語**。読点をふくめて「はい、」と書いても正答。
(5)	**私が**	「だれが借りたのか」＝私が。
(6)	**接続語**	前の文と後の文をつなぐ成分。漢字三字で「接続語」。「接続詞」は品詞名なので、ここでは×とする。
(7)	**イ**	「雨が降った」のに「中止にならなかった」と、予想とは反対の内容が続く。「ところが」は**逆接**の接続語。

小計　14点

三　語句・漢字の知識　（２点×８＝16点）

番号	解答	解説
(1)	**講演**	どちらも「こうえん」。「後援」「公演」「好演」でも正答とする。
(2)	**こざとへん**	「隠」の部首は「阝」(左側)。右側につく「阝」は**おおざと**（例：都・郡)。左右で名前が変わることに注意。
(3)	**にんべん**	「促」の部首は「亻」。「足」ではない。
(4)	**うおへん**	「鮮」の部首は「魚」。「羊」ではない。
(5)	**イ**	「目を疑う」＝見たものが信じられないほどおどろくこと。「ちょっと立ち止まって」の内容ともつながる慣用句。
(6)	**じゅうにんといろ**	「十人十色」＝人それぞれ考え方や好みがちがうこと。「じゅうにんじゅっしょく」は×。
(7)	**単純**	複雑 ⇔ 単純。「簡単」でも意味は近いが、対義語としては「単純」を正答とする。
(8)	**ウ**	「読書」＝「書を読む」。下の字が上の字の**目的・対象**になる組み立て。「登山」＝「山に登る」で同じ。ア高低は反対の意味、イ岩石は似た意味、エ青空は修飾の関係。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

四　「ちょっと立ち止まって」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4点	**ア**	「ルビンのつぼ」は、白い部分に注目するとつぼ、黒い部分に注目すると向き合う二人の顔が見えてくる絵。**何に注目するかで見えるものが変わる**ことを示す例。イ〜エは本文と無関係。
(2) 4点	**（例）中央の白い部分。（8字）**	「**中央（真ん中）**」＋「**白い部分**」の二語がそろって4点。どちらか一方なら2点。十字を超えたら－1点。
(3) 4点	**（例）左右の黒い部分。（8字）**	「**左右（両側）**」＋「**黒い部分**」の二語がそろって4点。(2)と(3)で「白」「黒」が逆になっていたら両方とも0点。
(4) 4点	**イ**	この教材の中心となる考え。**二つの見方は同時には成り立たない**（つぼが見えているときは顔は見えない）。アは「同時に見られる」としているので×。ウ・エは本文に書かれていない。
(5) 4点	**ア**	「ルビンのつぼ」と同じような経験が、日常生活でもよくあることを示す例。目が少女に引きつけられると橋や池などが背景になり、逆に橋の形に注目すると、その上を通る人などが背景になる。つまり**何に注目するかで、見えるものと背景になるものが入れかわる**ということ。
(6) 2点×2＝4点	**しかし…イ** **このように…オ**	「しかし」は前の内容と逆のことを述べる＝**逆接**。「このように」はそれまでの内容を受けてまとめ、言いかえる働き。
(7) 4点	**イ**	説明文では、**具体例は主張を支える根拠**になる。身近な例を重ねることで、読者は「たしかにそうだ」と納得しやすくなる。
(8) 4点	**イ**	「話題（ルビンのつぼ）の提示」→「具体例（橋と少女・若い女性とおばあさんの絵など）」→「筆者の考え（見るものや見方を変えてみよう）」という**尾括型**に近い構成。
(9) 6点	**（例）ひと目見たときの印象にとらわれ、他の見方に気づきにくいこと。（30字）**	「**印象**」という語が入っていること（必須）＋「**印象にとらわれる（縛られる）**」（3点）＋「**他の見方に気づきにくい／見方を変えようとしない**」（3点）で6点。「印象」が抜けていれば最大3点。二十〜三十字から外れたら－1点。
(10) 7点	**（例）ちがう見方がないかと考え、ものの新しい面を見つけようとすること。（32字）**	「**いったん見るのをやめて考える・見方を変えてみる**」（4点）＋「**新しい面・ちがう姿を見つける**」（3点）の二点で採点。「ゆっくり歩く」「休む」のように字面どおりに答えたものは0点。二十五〜三十五字から外れたら－1点。
(11) 5点	**ア・ウ・エ**	イ…「本当の姿」が一つあるとは述べていないので×。オ…筆者の主張と**正反対**なので×。**ア・ウ・エの三つそろって5点（完答）**。一つでも欠けたり余ったりすれば0点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ)】

1. 「ルビンのつぼ」は、**中央の白＝つぼ／左右の黒＝二人の顔**。白黒を逆に覚えないこと。
2. 二つの見方は**同時には見えない**。この一文がこの教材の核心。
3. 「橋と少女」の例は、**注目したものが目立ち、ほかのものが背景になる**という、ルビンのつぼと同じ経験を日常で示したもの。「人によって見え方がちがう」話とまちがえやすい。
4. 絵の例も月の例も、すべて**筆者の主張を支えるための具体例**。例そのものが言いたいことではない。
5. 題名「ちょっと立ち止まって」は**比喩**。「歩くのをやめる」という意味ではなく、「**見方を変えて考えてみる**」という意味。
6. 筆者は「一つの見方が正しい／まちがい」とは言っていない。「**どちらも成り立つ**」と言っている。
7. 最後の段落は、絵の話から**ものの見方全般**へと話が広がった、一般化された主張になっている。
8. 文の成分では、「**とても**」**が修飾するのは述語**（美しい)。主語を答えてしまう誤りが多い。